（二十三日夕刊）

磐城新聞

休刊　大祭 第一第三日曜
定價　壹ケ月五十錢、郵稅十錢
廣告料　一行五十錢（指定廿錢增）
發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

夏の夜の月□□□

古川龍域

近頃は毎夜月がよく冴ゑて見ねます。あの美しい月を見ながら月について考へるのも面白い事でせう、話の順序として先づ月の動き方から申しますと私共の地球は逃げやう逃げやうとかゝつても、太陽の引力に引止められて止むを得ず太陽の周りをぐる／＼廻つてゐます、その一周が一年掛かる、その距離は凡そ三千八百萬里位、ありますがその地球を太陽、地球とにたける同じ様な引力關係で月が地球の周りを廻つてゐるのです、それが歩く道筋はうね／＼として地球より九萬八千里、間隔を保つて廻つてゐるのであります、そして地球の自轉一回が二十四時間かゝるのに對して月は二十七日八時間を要するのであります、即ち

地球 が一セコンドの間に七里半走るに又、月は一セコンドに僅かに一町餘りより走らないのであります、その方向は地球の東より出て西へゆくのでありますが結局は東方へ向け常に歩いてゐるのであります。そしてその面は地球に對して常に半面より見せてゐない、從つて他の半面は地きう以外の遠い處からでなければ見えないのであります、しかし月の一回轉が二十七日と八時間かゝるとは云ひましても、新月から新月になるまでは二十九日と十二時間を要します。それは地きうが常に絶えず前進してゐるためでそこでこの時間のくひ違ひが生じてくるわけであります。即ち地きうから見て月が同じ形に回るまでは二十九日十二時間かゝるので陰暦の一月はこゝから出たものであります、かうして二十七日八時間かゝつて一運轉する間に月はいろ／＼の形を見せてゆきます、陰暦三日の月を三日月と云ひ、上弦又は

下弦 の月を弓張月と云ひ、滿月は十五日の月を云ひ、十六日の月は十六夜の月と云ひ、十七夜の月は立待月、十八日の月を居待月、十九日の月を寢待又は臥待の月、二十日の月を更待。二十日以後の月を有明の月と云はれてゐますが其間に月の盈虚が起つてくる、それは太陽が常に月の半面を照し他の半面を照さぬ故に起るものでありますが、それと共に地きうに對する月の位置の如何が原因してゐるのであります、滿月は月が漸次進んで太陽と正反對に出た時に見ねるものであります、處が夏の滿月は他の季節の滿月に比べて大きく見えますが、これは太陽が夏は高い高い處にあるため月が低い處に輝き太陽の低い冬などの滿月は高く見えるのであります。猶上弦下弦の月ですが上弦の月は右半面の光る場合これは太陽が西にあつて月は東の方にある時の月で、その月出は

正午 頃東に出て夜半に西に入るのであります下弦の月は太陽が東にあつて月が西にある場合で、左半面が照し出されたもので夜半に東方に出て正午頃西の空に入るものであります、それ故夜半以後に出る月は必ず曉の空に殘つて晝間人の氣づかぬ中に西空に沒します。夏、晝の空にふと月を見る事のあるのは、この下弦の月であつて、殊に晝長い夏はかうした月を眼に止める事が長いわけであります「夏の夜は未だ宵ながら明けぬるを雲の何處に月宿るらん」の古歌はまさにこの趣きを歌つたものと思はれます、又新月から滿月までの月は夏に必ず何時も晝の空にかゝつて見ね。夕方より光りせし夜半に沒するものであります。

明日の吉凶

舊曆六月十八日　新曆七月二十四日

▲一白　投機心を去り堅實に臨む時は大吉となる▲二黑　不過の日なれど手堅くすれば進路開け來る▲三碧　慣れぬ事にいざなはれて失敗のへそをかむ不安日▲四綠　空頼みせず自らかせぐにしくなし▲五黃　守れば失なしかたんとすれば却つて負となる▲六白　氣をいらつときは極端の變化を生じしくじりあり▲七赤　戀がいの絶頂にをどるが如き危けんの伸び易き日▲八白　意見の通らぬ日くへするは伸びるもとひと知れ▲九紫　張合ひよく營業の進み行く　但し飲食注意

平一校の作文

お使ひ

尋六　鈴木康輔

「康輔、お使ひにいつて來い」と言ふ聲が下から聞えた。近いところはもう終つたから、あとは遠いところだ。僕は遠いところへのお使ひはいやになるのが常である。

「行きたくないなア」とひとり言が出て、なゝ下りて行かなかつた處が「康輔いつてこい」と仲の悪い兄が怒つた樣に下からひゞいて來た

しかたなしに下りて行くと「九品寺へ」とお母さんの聲。重箱を手にして、いや／＼ながら出かけた。矢張り足は進まない。

「急いで行け」とお父さんの聲。「ハット」したが何となく眼があつくなつて來た。淚はおかまいなしに出てくる。道で行く人は僕をわらつてゐるやうだ。

九品寺前の親戚によつてからお寺にいつた。お和尚さんはにこ／＼顏をしてゐる歸りにまた親戚によつた

「康ちやんよく來たね」僕の心を見拔いたやうな叔母さんの言葉になんだかへんな氣持がした。叔母さんはどつさりいちごを持つて來てくれた。

「いちごうまいナア」

お使ひもいゝが、いやだ。

小說　死を超ゆる者

(44)　三上於菟吉作　布施平八郎畫

薄きえにし(一)

とき子はこの時、食ひ入るやうな視線を戀人に注いでゐたが、もう身体からあらゆる力を失つてしまつたもゝやうにフラ／＼とよろめいて傍らのベンチに腰を落とした

「その新聞はやつぱり本當なんですの？」

一歩戀人に歩みよつた時、彼女の眼は憤しげな涙に濡れて、語尾は口惜しげに亂れた。

「僕が郊外を歩いてゐた間に、世間へはもうこんな事が……」

と、勇はうつけたやうに河向ふの工場の方を眺めながら呟いた

「何故あなたははつきりと仰有つてくれないのです。私がこんなに願ひしてゐるのに……」

女は兩手をもぢり絞るやうにしてたゝみかけるやうに責め問ふのであつたが、とは言へ彼女も亦今にも其處へ氣を失つて倒れでもしまいそうに、全身をわな／＼と震はしてゐるのであつた

と、とき子はぢり／＼と勇の側へ寄つて、蒼ざめた面を振り上げて絶望と怨恨とに燃ゆるやうな瞳で相手を見詰めた

勇はまだぼんやりと新聞を眺め續けてゐるのであつた、彼は何か考へることは出來なかつた、新聞は彼の手から地面へ落ちてかさりと乾いたひゞきを立てた

彼は頬に浮いた冷い汗を掌で拭くやうな眞似をしたが、そのまゝ喪心したもゝやうに背後のベンチへぐたりと腰を落としてしまつた

「ねね、若樣、あなたは本當にこんなことを……」

とき子が斯う言つても、勇は初めて我に返つたやうに相手を眺めた

「その新聞記事はほんの一部は眞實だが大部分は違つてゐる、六千圓の金を盜んだのは眞實です、今あなたから突き返されたのはそれなのです」

と、彼は未だ左手に掴んでゐた紙包の紙幣を膝の上に眺めながら言つた

「けれども、僕は決して父を殺しはしなかつた」

「それぢや矢張り新聞は噓だつたのですね……」

と、とき子は叫ぶやうに云つて熱い溜息を吐いた

「君は僕が人間を殺せると……父が殺せると思つたのですか」

と、勇はむしろ冷い笑を唇に浮かべて、いつもより改つた口調で言つた

「いゝね、どうしてそんなことを」

と、とき子は言つて、しげ／＼と戀人の横顔を見入つた

「どうしてそんなことを思ふもんですか、そんなに優しいあなたが……けれども新聞があまり眞實らしく書くものですから……」

勇は暗い聲で言つた

「一昨日の晩此處で別れてから僕には實にいろ／＼なことがあつたのですまあ此處へおかけなさい」

と彼は自分の側を指した

そして二人は一昨夕の樣に並で腰を下ろしたのであつた、而し今夜は驚くべき不安と恐怖と陰うつと今にも彼を彼女の戀人をおそひかゝるであらう免れ難い危險とがあつた

二人は寄り添ふてゐてもお互に戀人の側にゐるといふ意義さへも上せ得なかつた

平町紺屋町

吉田眼科醫院

一圓十錢のフランス
マルソー會社元詰
マルソー、ブランク
マルソー、ルージ
生葡萄酒
優良にして安價賣行き飛ぶが如し
平二 **西村屋藥舖** 三番

◆急告◆
本月十八日御來町の故北白川宮親王殿下第三王子小松侯爵閣下の高月邸に於て謹寫せる御尊影御入用の方は至急頒布致すべく候間弊舖に御申込みを乞ふ！
平町田町大通 **ライト寫眞館** 電話八四七番

生花教授
池ノ坊流　生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町十五丁目通り **須藤まつの**

營業種目
內地材　材木各種、羽柄材各種　建築材請負　礦山用坑木其他諸材請負
外材部　米松、米杉、大角製材調達　請負　其他
㊀ **佐藤材木店** 常磐線平町新川町 電話三三五番

貸地廣告
平町郡役所より税務署附近の新開地に五百餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絶對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり戴けば社員がお伺ひして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社 平出張所 電話 六〇三番 五四一番

內臟外科 骨關節外科 專門 **藤本順**
整形外科 產科 婦人科 院長 **木村寅次郎**
外科 婦人科 平町新川町 **木村醫院** 電話一六四番

ホシ美石鹸

石鹸物語

一　新しくホシ美石鹸が生れました。此の石鹸が市場に出るに就ての因縁を一通りお聞き下さい。

二　元來、石鹸は化粧品と云ふよりも、寧ろ保健用品であります。文明人は石鹸で身體を淨めますが、野蠻人は、石鹸を食べて了ひます。

三　日本で舶來石鹸が出來るなどと言つたら、皆さんは不思議にお思ひになるでせうが、舶來品と雖も神樣が造るのではありません。

四　優秀な原料と、熟練の技師と、特種の機械とがあれば立派に舶來品が出來上るのであります。所在地は問題ではありません。

五　日本で造つた舶來品には輸入稅も掛らなければ、運賃や保險の必要もありません。

六　[illegible]に、佛蘭西製の最も精巧なる自働機械に依り、最も優秀なる原料を以て[illegible]られます。ホシ美石鹸が市場に出る迄の因縁話は、まアざつとこんなものです。

東京　星製藥株式會社　大阪

警視廳の膽を冷やした 陳情百卅名の自動車隊
明治神宮に祈願をこめて 商港工事繼續の運動

小名濱町では商港工事繼續運動につき二十日夜同町公會堂に於て町民大會を開いた結果飯塚榮一郎氏外百二十八名を以て小名濱修築祈願團を組織し最後の陳情を爲すことゝなり陳情團の一行は白襷姿も凛々しく二十二日午前三時湯本發列車で上京した旨昨報したが午前八時頃日暮里驛に下車出迎中の町會議員と落合ひ省線電車に乗り換ね原宿驛に下車

明治神宮に參拜して修築實現、祈願をこめつゝで小名濱修築祈願團の白襷と青リボンの徽章をつけ一行は二十餘臺の自動車分乘内務省へ向つた一方日比谷署ではこの大部隊陳情團に驚き數十名の警官派して内務省を固めさせ午前十一時頃陳情團の一行が來るや、自動車を内務省から大藏省前街路樹側にかけて一列に押し並ぶや一行の白襷を不穩なりとして取りはずさしめ自動車より出るを許さず自動車内に

罐詰にして代表者十餘名を出さしめた、そこで飯塚氏外十餘名は警官に衛られ乍ら内務省に出頭潮次官、齋藤政務次官、内ヶ崎參與官等に面接縷々陳情し更らに大藏省當局を訪問陳情の上出京中の小柳知事と會見打合せの上更らに淺野聽郎翁を訪問陳情したが連日の猛運動に幾分曙光を見出した一行は愁眉を開いて歸町した

震災で別れた親を 尋ね廻る少年
幾變轉七ケ年を經て 平町で進退谷る

平署人事相談所に二十一日午後六時頃職人風体の青年が訪れ水戸市迄の旅費給與方を嘆願したので係官が其事情を質すと同人は東京市本所區緑町生れ藤野切太郎（二七）といひ八歳の時に彼の大震災に遭遇親子供に本所から山の手方面に避して來る途中、焦熱地獄の渦巻の中に親子は放ればなれとなり初太郎は何時の間には日暮里方面に來てしまつた。親達を尋ねん・術なく泣き暮れてゐたのを丁度上京中の伊達郡川俣町製冷職豊田某が通り合せ事情を聞いて非常に同情し初太郎を自宅につれ戻り吾が子の如く養育中初太郎は風のたよりに戀しい兩親が茨城縣水戸市方面に生存してゐるを聞き無斷で家出し二十一日平町まで來たが旅費は一文も無く朝から何も食はずに歩きつゞけて來たとのことに係官も同情して水戸市に向つて出發させた

落磐の下敷
小野田礦支柱夫

石城郡磐崎村上湯長谷小野田炭礦支柱夫秋田縣雄勝郡生れ齋藤松吉（四九）は廿一日午前八時ごろ同坑斜坑上坑附近で作業中落盤のため瀕死の重傷を負ひ手當中ほどなく死亡

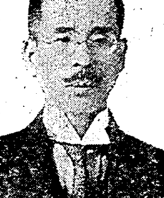
石城米保合
先高見込うすし

石城地方米値段は木月初旬騰大が因となつて連日釣瓶下しに下落し底なしの状態を呈しつゝあつたが二三日前より辛くも踏止めもち合ひを續け幾分安堵の状を示すに至つたが尙今回の雨により稻作はいよ〳〵良好となつたのでもち合ひも一時の小康に終るらしく目下相場は四等一駄二十一圓五十錢見當で持米者は手離すには、離せず決算期を控えし大弱りの体である

平町の飾り窓評
夏井龍平

平町は都會である。太平洋岸常磐線での大都會である。言葉をかはれば平町は商業都市であつて生産都市ではない。地方的雜貨集散市場なのである。で平町は澤山のショーウヰンドウを持つてゐる事になる。飾り窓は街の眼であり表情である。斷然美しくなければならない筈なのである。そこで諸君よ、本町通り商店街の飾り窓を眺めて見たまへどれだけ諸君の心を促へるものがあるか？恐らくその何れも平凡な非効果的の大同小異の行列であるだらふ。比較的高級と一般かし見なされてゐる呉服店の飾り窓であつても、粗雜な背景に浴衣地をブラ下げた程度の幼稚さに違ひない。その他書籍店藥店等々のそれを瞥見しても何等諸君の感興を唆り亦散歩の足を滯滯させはせないだらふ。どうせ飾り窓を作るからにはもつと効果的なものを持ち度いものである。之に就いて商店側は言ふだらふ。さても不景氣の絶頂でして考へない譯ではありませんが經費の點がどうも――。然しこれは彼等が自分の店の一部である表情を重要視しない爲の苦しい言譯に過ぎない。金をかければと云ふのではない。金のかけ方に就いて考究しろと云ふのだ。積極的に客の心理を促へろと云ふのである。要は飾り付けに就いて具体的に研究するにある。時には町全体が聯合して飾窓投票を行つて人氣をあほるのも一つの方法だらふ。或は亦三萬市民を擁する平町であるから、隱れたる装飾的圖案家が二人や三人はゐると思ふ。即ち彼等に飾り窓の空間を提供して彼等の手腕を充分振はしめるのである。亦それに對して僅少の勞働報酬を支拂ふのは當然である。平町に廣告圖案社が出現し活躍するのも餘り遠き將來ではないだらふ。ひるがへつて東京の表情筋を少し見よう。三越、松屋、白木屋、松坂屋、高島屋などの大百貨店では數人の美術學校出身の圖案家が飾り窓のために使用してゐる、全くその素晴しい近代的な感覺的な刺戟的な期節的な、そして向且その店の特質を現はしてゐる新鮮な飾り付けには敬服の外はない。また東京に於いてはどんな店でもショーウヰンドウを持つてゐない店は殆んど無いと云つて良い。亦洋品店の如きは其の店で賣つてゐる種類を全部飾り窓にならべてゐる客が店に入らないでも商品の柄なり質なり價格なりを知る事が出來るから至極便利である。そこで商店よ、ご納得が行きましたら各自の飾り窓を愛してやつて下さい。その事は景氣を挽回する一助にもなるでせう。町の美化にもなるでせう。中元大賣出しの赤旗ばかりが廣告では無いのです其の内に立派な圖案社が生れま事を信じて漫筆を擱きます

醫者の聖き指命
絶對信任の 理想的な病院
高久忠氏



人を殺して責任の無いものに醫者と藝者とがある――是れは些さか極端な物言ひであるかも知れぬが、醫者の誤診と藝者の手練手管は如何に國法を以てしても全然の不可抗力である

夫れだけ醫者の責任は重大である事を自覺せねばならない、全然無智にして弱き患者は神の如く信じその手に縋る以外寄り邊のない大事な人の命を預る醫者は眞に神の如く聖きものであると同樣必らず名醫たる事が必須な要件であるが、此處に[illegible]平驛に近い高久病院を聯想する。實際市の內外を問はず貧富凡ての階級から地方の名醫として信用され門前常に市をなし病室は常に滿員の盛況を呈して居る事は偶然の事ではない、全体何商賣にでも見る事で有るが殊に病院經營の如きは消長常ならざるものが多い、にも拘はらず開業二十年に近き同院が競爭者の多い今日尙益隆盛に向ひつゝあるのは一は圓熟した高久院長の眞面目な努力と親切とが齎らした結果に相違ないが一方外科藥局主任諸氏の細心熱誠が永く院主を補佐して今日をあらしめて居る事は見逃し得ぬ事であらう

從て患者の取扱ひや藥局の調劑等に萬々遺漏なからしめむには看護婦の頭腦も大影響ありとして同院の方針として、常に粒選りの有資格者を採用して居る事は又感ずべき事で諸孃の懇切聰明さは同院を訪ふた人、又入院の經驗ある人の等しく激賞する處である、此等が亦常識の圓滿なる院長の訓錬宜しきを得たる結果と見るべく

勤もすると科學的の冷靜な態度が却て病人の經過を惡化する傾きのある醫療方面には高久院長等の所有せる性格は最も稱贊に値すべきものと思ふ

翻つて高久院長の家庭的内面を窺へば賢夫人の譽れ高き令閨が内助の功により令息令孃とも極めて謹直圓滿そのものゝ如く他者の羨望の的となつてゐる

殺人的の暑熱に 青年路上に卒倒
平驛前の大騒ぎ

平町地方は土用入の初日から曇天で氣遣はれゐたが廿二日から炎天焼くが如き酷暑で往來を行く人も喘ぎながら釜中の苦しさに嘆ちまたしも寒暖計は九十度を突きぬけ殺人的の暑さとなつたがこれがため今二十三日平驛前を歩行中の双葉郡木戸村大字山田岡松本國雄（二四）は急性腦貧血を起し卒倒したので通行人が發見驛前派出所鴨志田巡査と共力し高久病院に擔ぎ込み手當中であるが餘程の重態であると

平第一運動會

平第一小學校月次運動會は明二十四日に變更されたが同日は午前八時から二年生以上の耐熱行軍がある

養育院を 脫出の少年
平署に捕はる

平驛待合室内を十七日午前十時頃學齡不審の少年が徘徊してゐるので折柄密行中の平署青田刑事が檢擧取調べ中の處この少年は山形縣生れ目下住所不定無職鈴木政吉（假名十七）と稱し、癖が惡るいので東京市養育院巣鴨分院に收容されてゐたが去る十四日夜同院を逃走し府下大塚驛電車終點前書籍店から講談雜誌一冊、外十數冊を萬引して日暮里驛より列車の便所に這入つた儘植田驛まで無賃乘車し平町に來たり十六日夜飯野村大字下荒川鈴木文彌方の留守宅の机の抽斗から現金一圓五十四錢、衣類一點を竊取した事を自白したが餘罪ある見込みで取調中である

團体事務所
あす議事室へ移轉

平町元部役所は各組合の團体事務所であつたが平署移轉のため何處かへ引越さねばならぬ事になり團体事務所新築の立案もなつたが明二十四日會議室に總引上げする事になり準備をなしてゐる

平一校同窓會

平第一小學校同窓會總集會は所報の如く二十三日午後一時から開催會長校長の挨拶あつて尋常一、二年生の唱歌、遊戯、作山美八氏の講演や茶菓を頒ち散會した會員は二百餘名であつた

入山炭鑛の 安全週間

八月一ケ月間を湯本町入山炭礦では毎年夏季に於て事故の多いのに鑑み來る八月一日より卅一日までを安全週間デーとし事故の皆無を期する事となつたが宣傳法には趣意書の配布大額獻燈を坑口並に山神社に献掲し山神社の安全祈願札を坑内外に貼付し更らに標語その他を配布し事故の徹底的絶無を期する筈である

平校の野球軍
新陣容成る

平第一小學校野球部では放課後炎天下に猛練習をなして來る二十八日の濱三部少年野きう大會に必勝を期してゐるが尋高のメンバー左の如し

（尋常科）

1	佐々木武
2	吉田定義
3	永山隆三
4	小館重雄
5	鈴木四郎
6	酒井貞良
7	阿部元彥
8	山崎研治
9	大谷德雄

（高等科）

1	佐藤好男
2	酒井善治
3	鈴木定雄
4	香野辰雄
5	長谷川完二
6	船山勝衛
7	山久勇
8	渡邊弘美
9	小菅勝三

平陽夏季講習

平陽女學校主催の夏季講習會は來る八月五日から七日間同校內に於て開催せらるゝが科目は婦人、子供洋服の仕立、手藝に就てである

押入れから鷄鳴
之れは不思議と取調べ 意外な罪を自白

石城郡內郷村大字宮字宮澤磐城炭礦長屋居住支柱夫岩島德太郎（五三）は二十二日午後二時頃同村金坂雜貨商鈴木要七裏手にある養鷄舍內から白色レグホン雌雄鷄六羽（代價約十八圓）を搔渫ひ自宅の押込みの中に隱して置いて買拂んとしてゐたが時々鷄もゐない同家からコケコッコーと啼き出すので近所の者は不審を抱き噂したので同礦詰願金子巡査が探聞し小山田、桑原の兩刑事が張り込み德太郎を引致取調の結果右の事實を供述したが猶は郷里群馬縣下花輪村にも犯罪あるらしく目下照會取調中である

劍劇ゴッコで 子供怪俄

石城郡鎌田町綠川淺吉男勇（七）は附近の兒童と劍劇遊びの亂鬪中、過つて口より顎に約三寸の傷を負ひ同町鎌田醫院に治療中であるが活動寫眞の惡影響で兒を持つ親は注意せねばならない

稻の腐敗
下小川村方部に

石城郡內の稻作は數日來の好天候に回復し此の分では豐作は疑ひないものと觀られてゐたが突如下小川村部落の苗にイモチ、苗クサリ等の腐敗病が發生したので郡農會技師は出張詳細取調中である

平町撒水休止

平消防組の撒水自動車は水道の水不足から過般來より新川の水を動力で揚水それを撒水して來たが、動力は月二回公休するので公休月だけは撒水中止の止むなきに至つたので十九日全町に亘り消防組の名で公衆衛生の爲め二回の公休日（當分）は各戸で撒水されたいと注意書を配布した

平窪繭品評會

石城郡平窪村大字下平窪繭品評會は二十四日午後一時から同村明智源七方に於て開催し終つて賞品の授與をなす審査員は石城養蠶同業組合栗出技手である

大工作料値下
八月一日から實施

平町大工組合では此の程の總會に於て從來二圓五十錢の一日作料を二圓三十錢に値下げ八月一日から實施する事となつた

高久農作品評

石城郡高久村の農作品評會開催は既報の如くであるが今二十二日午後一時から同村役場に於て入賞者の賞品授與式が郡農會から柴田技手出張した

五十鈴艦上より

大平洋上遙かに敬意を表し御健康を奉祈候　千葉、彥治
本當の軍艦に乘せて見たかつたよ　土產もの澤山　川崎　小鳥
愉々快々、老えて益々旺むなるを覺ね申候　丸白デッチ
磐城新聞社御中

佐藤家の不幸

平町佐藤作平氏養母ツル子氏は永らく病氣療養中の處二十二日午後四時永眠し葬儀は二十四日午後二時小名濱町の佐藤氏自宅出棺淨光院に於て執行の筈

入山自治懇親

入山炭礦自治會では來る八月四日小名濱海岸小名屋バラックに於て海水浴を兼ね役員の懇親會を開くと

劇と映畫

聚樂館　十五日から劇團の東京大名題松本錦枝大一座の初日狂言は△鞍馬山大だんまり△富士三柳扇曾我△川中島輝虎配膳の場△中相國旭之清盛直盛諫言の場等で狂言毎日取替へ前人氣よし

木村代議士歡送會

代議士木村清治氏は萬國商業會議所總會の爲め八月一日神戸出帆渡歐の途に就くこと相成り候就ては此の行を旺ならしむる爲め左記の項により歡送會を開催致し度く候間奮つて御出席あらるゝ樣有志各位に御通知申上候

一、日時　七月廿六日午後二時
一、場所　谷口樓
一、會費　三圓（當日持參）

御出席の方は二十五日午後三時までに平町大村屋旅館まで御申越願上候

發起者一同

出張所開設

石城郡小名濱町上町一六
株式會社 七十七銀行
小名濱出張所
電話 五四番

七月廿四日より開業

内科、小兒科
花柳病科　入院應需
藤沼醫院
平町新川町
電話平 五〇七番

謹啓父織江儀 死去致候際は折悪しく洪水にて種々取込み候のみならず農繁の折にも有之密葬致置候就ては七月廿五日午後一時柳生院に於て法要相營み可申候間此段御通知申上候　敬具

昭和四年七月二十二日

男　木田剛

太田三郎妻ツル子儀 永々病氣ノ處養生不相叶昨二十二日午後四時死去候ニ付此段爲御知申上候

追而葬儀ハ來ル二十四日午後二時石城郡小名濱町佐藤作平宅出棺淨光院ニ埋葬可致候

昭和四年七月二十三日

嗣子　佐藤作平
　　　水野忠護
　　　水野順弘
　　　太田一郎
　　　三澤敬義
外　親戚一同